

第40回環境審議会 議事要旨

- 日時：令和3年11月24日（水）15時05分～16時20分
場所：環境局 第1・2会議室（一部委員はWEBにて参加）
議題：（1）会長選出等について
（2）「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」の改定について（諮問）
（3）その他
- 出席者：（委員）下田会長、合田委員、阪委員、新玉委員、惣田委員、西尾委員、松井委員、松崎委員、松本委員、森山委員、雪本委員、吉田委員、吉積委員、和田委員
（事務局等）堀井環境局理事兼エネルギー政策室長、三原環境施策課長 他

配付資料：次第

配席図

大阪市環境審議会委員名簿

資料1 「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」の改定について

参考資料 大阪市環境審議会規則

参考資料 大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕

参考資料 大阪地地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕概要版

【議事要旨】

- ・推薦により下田委員が会長に選出された。
- ・堀井環境局理事兼エネルギー政策室長から審議会へ「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」の改定について諮問した。
- ・資料1により、現行の「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」の概要と進捗状況について事務局が報告のうえ、現状の課題認識と改定の方向性の案について説明を行い、意見をいただいた。

【委員意見】

「大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕」の改定について

- 環境教育の推進にあたっては、学校や教育委員会との連携が大事である。
- エコロジカル・フットプリントを活用して、市域の温暖化問題をどのように評価するか。市民理解の促進のために、環境教育のプログラムとの連携が必要ではないか。
- 現在、環境省で検討されている「地方公共団体実行計画策定・実施マニュアル」の改定内容に基づき、CO₂が発生するものに関する数値情報（区域別とかセクター別）、脱炭素化に向けたシナリオ、2030年と2050年の段階で重点的に取り組む施策について、しっかり提示してほしい。

- 気候変動により被害を受ける将来世代を意思決定過程に参加できるよう検討されたい。
- SDGs 未来都市である大阪市として、マルチステークホルダーと対話し、誰一人取り残さない形で進めていただきたい。
- 適応策が色んな部門の寄せ集め感があるが、統一感があるような提案はされないのか。
- 行動変容の取組みに関する成果指標を改定計画に盛り込んでほしい。
- 2030年に至るまでの年度における部門別の数値目標も示すことが必要ではないか。
- 一人ひとりの生活や事業者の活動が、いかに地球温暖化に対して影響を与えているか、自分事として響くように丁寧に情報発信してほしい。
- カーボンニュートラルの社会に向けて、大阪市の産業のこういうところがこれから伸びていくと提案することが、大阪の環境と経済の好循環につながるのではないか。
- 温暖化の防止がネガティブなイメージではなく、ライフスタイルや産業社会のイノベーションにより、明るく豊かな未来がカーボンニュートラルの世界であるということを示してほしい。
- 特に若い世代との意見交換により、カーボンニュートラルに関する知識を深めてもらうことが、これからの大阪市の中では一番大事である。
- 今の計画では、誰が実行するのか、具体的にどの業界に何をしないといけないのかが不明であるので、そのあたりを明確にしていきたい。
- 大阪市役所として実行しなければならないことを市民・事業者に示す必要がある。
- 2030年度の目標に対して、各主体別に、「今すぐやること」を明確に記載したほうが良いのではないか。
- 脱炭素化にかかる費用は、「将来世代への投資である」とはっきり明示してほしい。
- 大阪だけでは、再生可能エネルギーを主力として脱炭素化できないので、近隣の基礎自治体との連携による大阪域として連携構想というのでも検討してもらいたい。
- パートナーシップづくりみたいなところを大阪市に担っていただき、色んなアイデアや業種を連携させて、全体を見られるようなネットワークづくりをしていただきたい。